鹿児島県姶良市

災害時応援者用マニュアル

Ver.1.5

姶良市水道事業

2026 年 3 月 19 日

内容

1　はじめに 1

（1） 目的 1

（2） 始良市の概要 1

2　始良市水道事業の危機管理体制 1

（1） 本水道事業の危機管理体制 1

（2） 対策本部の体制及び応援受入窓口 1

3　応援水道事業体の役割 2

（1） 応援水道事業体にお願いしたい役割 2

（2） 幹事応援水道事業体の選出 2

（3） リーダー水道事業体の選出 3

（4） 指揮命令系統 3

（5）現地対策部会議（幹事応援水道事業体が出席） 3

4　始良市水道事業の応援受入体制 4

（1） 集合場所 4

（2） 受入時のやり取り 5

（3） 宿泊施設、駐車場、食料等の確保 5

（4） 必要な資機材等の提供 6

（5） 持参いただきたい資機材等 7

（6） 問合せ・要望対応 7

5　応急給水作業にあたり留意していただく事項 7

（1） 応急給水活動フロー 8

（2） 応急給水活動の内容 8

（3） 広報について 9

（4） その他 9

6　応急復旧作業にあたり留意していただく事項 10

（1）応急復旧活動フロー 10

（2）応急復旧作業の際の留意点 11

参考資料（日水協手引きから抜粋） 13

資料2 13

様式 15 14

様式 16 15
様式 17 17
様式 18 18
様式 20 19
様式 21 21
始復旧様式1 23
始復旧様式2 24
様式 23 25
様式 24 27
様式 25 28

履歴

R8.10.27（Ver.1.5）一部文言修正

1　はじめに

（1）　目的

本マニュアルは、姶良市内において大規模災害や水質汚染事故等が発生し、姶良市水道事業だけで対応することができない場合に、他の水道事業体等から応急給水及び応急復旧の応援水道事業体を受け入れるに当たり、事前に知っておいていただきたい内容をまとめることで、応援水道事業体に円滑かつ迅速に応援活動（応援水道事業体による応急給水活動）を行っていただくことを目的としています。

姶良市が応援水道事業体を受け入れる場合に、現地での応援水道事業体の窓口や役割、応援受入体制、応援活動の業務内容、応援受入れに伴う費用負担の考え方等について、「地震等緊急時対応の手引き（公益社団法人日本水道協会作成：令和7年3月改訂）」（以下「日水協手引き」という。）を基本に、応援水道事業体にお伝えする内容を整理したものです。

（2）　姶良市の概要

令和8年2月現在

・姶良市面積：　約２３１．２５ｋ㎡
・給水区域面積　：　約８５．７９ｋ㎡
・給水区域　：　姶良市
・給水人口　：　７７，４３４人（普及率99.9%）
・１日最大配水量　：　２６，９３０㎥／日（３４７ﾘｯﾄﾙ／人・日）
・１日平均配水量　：　２４，８２４㎥／日（３２０ﾘｯﾄﾙ／人・日）
・配水管延長　：　６１．３１㎞（口径１３㎜～口径５００㎜）
・施設数　：　配水池　３２池、ポンプ場　１６か所
・職員数　：　１８人（職員１８人）

2　姶良市水道事業の危機管理体制

（1）　本水道事業の危機管理体制

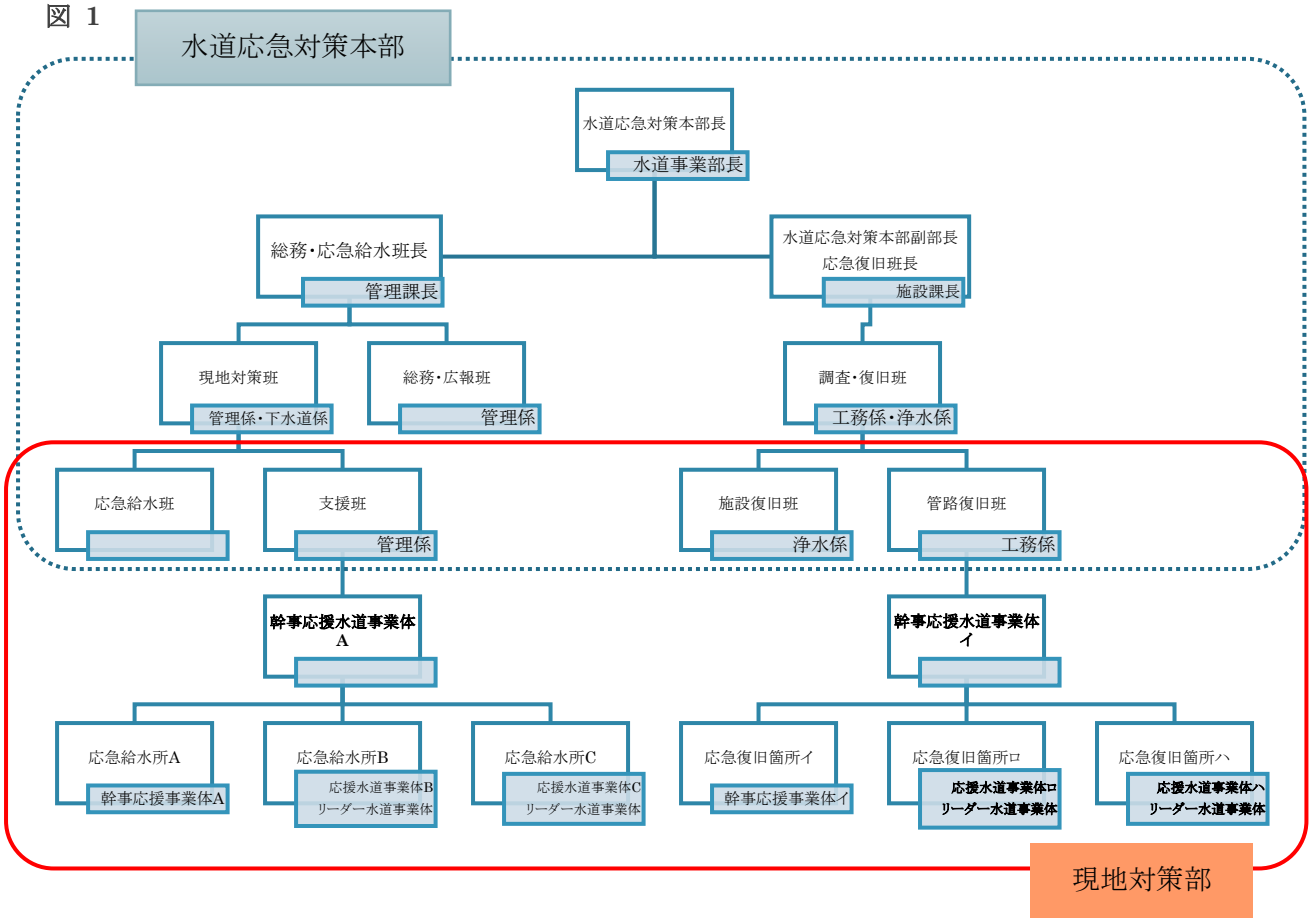
本水道事業では、災害・事故等が発生し応援水道事業体を受け入れる状況となった場合、図1のとおり水道事業部長を本部長とする【水道応急対策本部】を組織します。

（2）　対策本部の体制及び応援受入窓口

協定に基づく又は日水協を通じて、他の水道事業体へ応援要請を行うことを決定した場合は、各水道事業体等への応援要請と受け入れの調整は【総務・広報班】が行います。また、現地では、図1のとおり

【現地対策班】及び【調査・復旧班】を編成し、応急給水と応急復旧の対応を行うこととしています。応援水道事業体には、水道応急対策本部の体制をご理解の上、各班と協力しながら応急活動にご協力願います。

図 1



3 応援水道事業体の役割

(1) 応援水道事業体にお願いしたい役割

応援水道事業体には、現地対策部で応急活動(【現地対策班】【調査・復旧班】)の業務に従事していただきます。

(2) 幹事応援水道事業体の選出

当水道事業では、被災の規模や状況により、水道事業部の職員は応援活動を直接総括指揮できない可能性が高いと想定しています。

この場合、市役所本庁(一般会計職員)から職員を現地に派遣して総括指揮の支援を行いますが、この対応ができないときは、日本水道協会から派遣される「先遣調整隊」又は応援活動の経験を有する水道事業体に「幹事応援水道事業体」として現地対策本部に入っていただき、水道応急対策本部と連絡を密に取りながら、日本水道協会と調整の上、応援活動を総括指揮していただきます。(日水協手引きー P5「先遣調査隊」 P19「幹事応援水道事業体」)

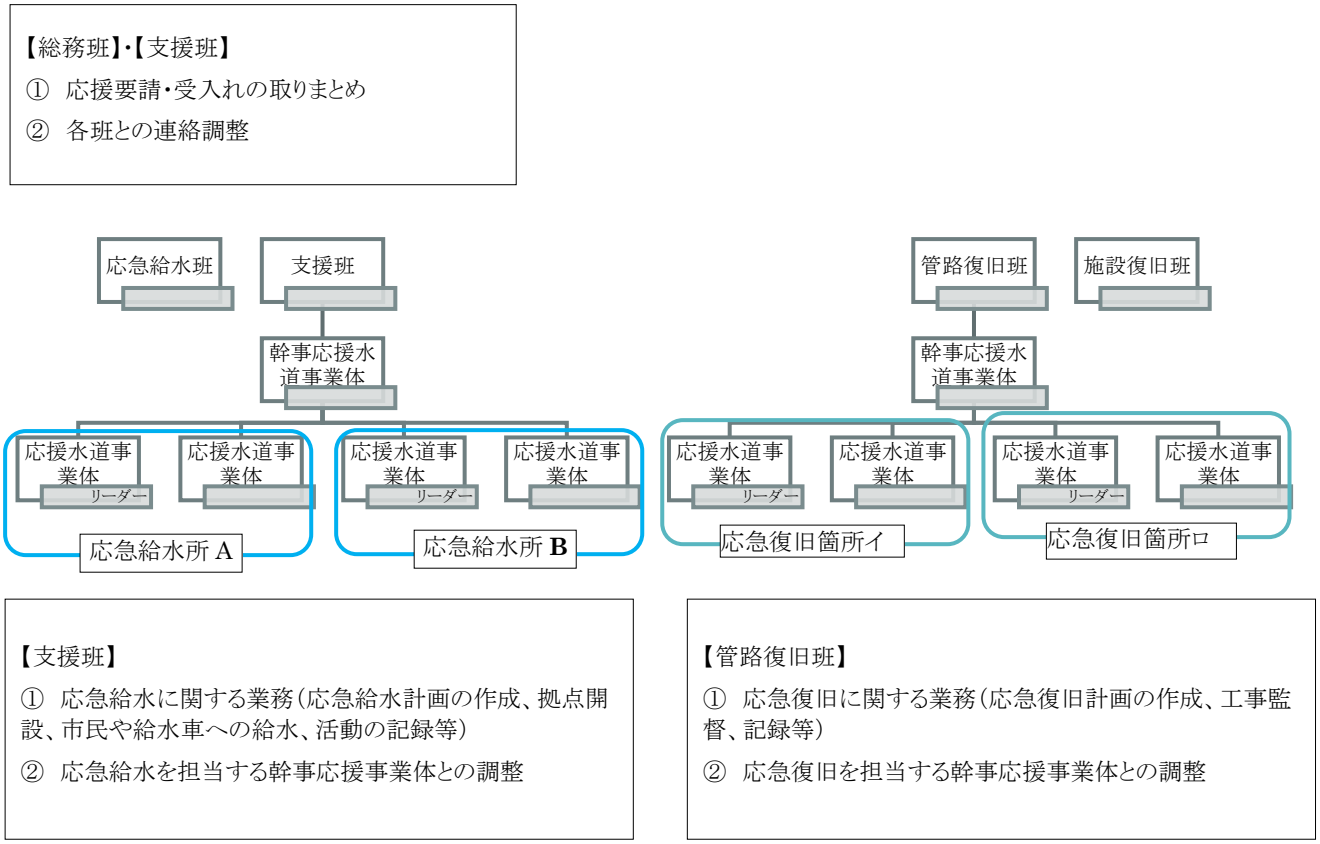
(3) リーダー水道事業体の選出

応援活動の実施に際しては、姶良市内を「地域ごと」や「担当活動ごと」にグループ分けし、幹事応援水道事業体が各グループに応援水道事業体を振り分けて、グループの中から「リーダー水道事業体」を決定します。リーダー水道事業体は、幹事応援水道事業体と密に連絡調整を取りながら、幹事応援水道事業体の指示の下、各グループ内の応援水道事業体と協力し、活動にあたっていただきます。

(4) 指揮命令系統

現地対策班の指揮命令に係る、幹事応援水道事業体、リーダー水道事業体、応援水道事業体の関係は、次のとおりです。幹事応援水道事業体は、現地対策部で指揮総括を担っていただくとともに、現地対策部で応援水道事業体として応援活動も行っていただきます。

図 2



(5) 現地対策部会議（幹事応援水道事業体が出席）

幹事応援水道事業体が設定されている場合、幹事応援事業体に対し、朝夕、現地対策部会議により情報共有を行います。

開催場所は、姶良市水道事業部の会議室となりますが、被災状況によっては、別の場所で開催する場合があります。

開催時刻は、それぞれ、午前7時、午後8時半の予定です。

幹事応援水道事業体は、本会議において指示のあった事項等必要な内容を他の応援水道事業体に伝達をお願いします。

幹事応援水道事業体の設定がない場合には、情報共有を行うため、すべての水道応援事業体の代表者の方は朝夕、現地対策本部会議に出席をお願いします。

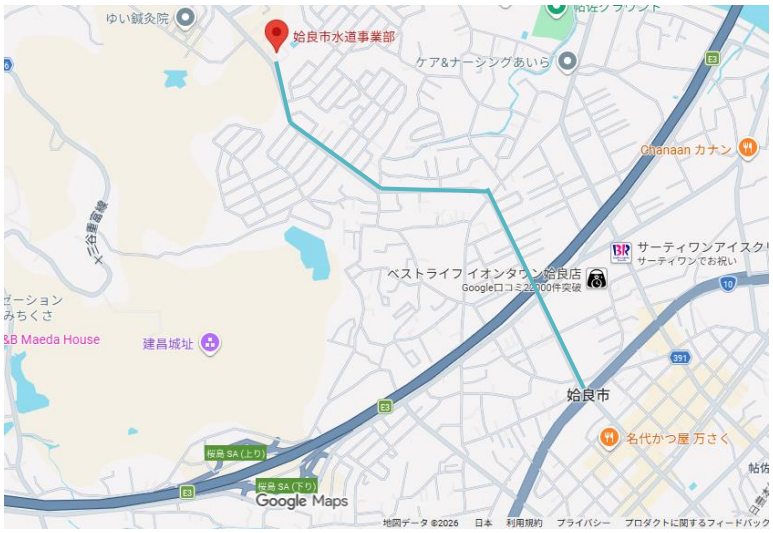
4 姶良市水道事業の応援受入体制

(1) 集合場所

先遣調査隊ほか、応援水道事業体の集合場所は、「姶良市水道事業部(現地対策本部)」(図 3)とします。ただし、何らかの理由により姶良市水道事業部が使用できない場合や、応援水道事業体の規模・応援内容等によっては、別途集結場所を指定します。

姶良市水道事業部の所在地等	
住所	鹿児島県姶良市船津138番地1
電話及び FAX	(TEL)0995-65-3450 (FAX)0995-65-4711
メールアドレス	wkanri@city.aira.lg.jp
施設情報等	
駐車場の台数	40台程度
最寄り IC 等	姶良 IC 約5㎞ 10 分 国道 10 号





(2) 受入時のやり取り

ア 受付窓口

応援水道事業体の受入れは、現地対策部(水道事業部内)で行います。ただし、被災状況に応じて変更する場合があります。

イ 受付時に必要な内容

受付時には、日水協手引きの次の様式に必要事項を記入の上、【現地対策部:支援班】へ提出してください。

様式 15「応急給水応援体制報告書」

様式 20「応急復旧応援体制報告書」

現地対策部では、応援水道事業体の到着時に、応援水道事業体の体制、責任者、車両、資機材等の確認を行います。

責任者については、応急給水班との連絡調整を行っていただきます。

ウ 手続き終了後

手続き終了後、【応急給水班】、【調査・復旧班】と合流し、活動していただきます。

(3) 宿泊施設、駐車場、食料等の確保

ア 宿泊施設の確保 宿泊施設は、応援水道事業体で確保をお願いします。

イ 施設の状況(駐車場等の利用)

駐車場、トイレは水道事業部施設内の設備を利用できます。ただし、被災状況等により利用できない場合も想定されます。

ウ 食料及び燃料の確保

食料及び燃料は当事業から応援水道事業体に提供することは困難であると想定されますので、応援水道事業体で確保をお願いします。

なお、食料については、応援水道事業体で必要数の確保が困難な場合、【水道応急対策本部：支援班】において確保・提供できるよう努めます。

エ　事務及び通信機器

パソコンや携帯電話などの事務用品及び通信機器については、応援水道事業体で準備をお願いします。なお、現地対策部がおかれる水道事業部では無線 Wi-Fi 等の通信設備はありますが、多数機器の接続を想定した設備ではないため、接続が不安定または接続ができない可能性があります。インターネット環境が必要な場合は、応援水道事業体において携帯 Wi-Fi 等の準備をお願いします。

オ　車両（緊急通行車両の手続き）

大震災等の大規模災害等が発生した場合、災害対策基本法等に基づく交通規制が実施され、車両の通行が制限されることがあるため、公安委員会から交付される緊急通行車両確認証明書及び標章の持参をお願いします。なお、交通規制区間を通行される際は、緊急通行車両確認証明書は車両に備え付け、標章は当該車両の前面の見やすい箇所に提示してください。

（4）　必要な資機材等の提供

現地対策部で備蓄している資機材は、下表のとおりです。応援活動で必要となる場合は現地対策部から提供しますが、既に使用している場合もあるため、応援時はご確認をお願いします。

表 1

			令和8年2月現在
品目	**仕様**	**合計数量**	**備考**
加圧式給水車	3,900ℓ	1台	
トラック	2t	1台	
車載給水タンク（アルミ）	2,000ℓ	1基	
車載給水タンク（ポリ）	2,000ℓ 1,000ℓ	1基 2基	2,000ℓ 蒲生山元水源地 1,000ℓ×2中野浄水場
給水コンテナ	500ℓ	1	
ポリ容器	5ℓ、10ℓ、20ℓ	6個、7個、3個	
給水袋	6ℓ	11,000 袋	
緊急用給水栓	水栓4個	3台	1台　船津浄水場内 2台　給水車に配備
発動発電機		3台	
投光器		2台	
テント		4基	
非常時用浄水装置	4m³/h	1台	

（5） 持参いただきたい資機材等

次の資機材(表 2)については、応援水道事業体が可能な範囲で持参をお願いします。

表 2 応急給水資機材一覧

分類	名称	備考
車両	・給水車 ・緊急通行車両の証明書・標章 ・資材運搬用車両	・加圧式が望ましい
安全装備類	・ヘルメット	
給水機材	・布ホース（マチノ式 φ65） ・継手変換アダプター ・応急給水栓	
給水容器	・給水タンク ・ポリタンク ・給水袋　等	
その他	・携帯電話 ・ビブス ・テント	・桜島の降灰対応のため、季節に関わらず、可能な限りテントを持参ください。

※ その他、日本水道協会「地震等緊急時対応の手引き」を参考に、必要となる資機材を持参していただくようお願いします。

（6） 問合せ・要望対応

- 応援水道事業体からの問合せや要望は、【現地対策部：支援班】で対応します。
- 応援活動中に住民から問合せや要望があった場合、業務内容を説明していただくとともに、問合せ等の内容について、次の様式の備考欄に記載の上、現地対策部に報告をお願いします。

  様式 16（裏）「応急給水作業報告書」

5 応急給水作業にあたり留意していただく事項

市全域が被災した場合、複数のブロックに分けて活動を行います。

具体的には、ブロックごとに割り当てられた応援水道事業体は、応急給水班が作成する応急給水計画に基づく次の様式に従って、応急給水活動を実施します。

応急給水活動に関する具体的な内容は、水道事業部での説明になりますが、応急給水における活動フロー、留意点について記載します。

（1） 応急給水活動フロー

I.【共有】 現地対策班と応急給水班が作成した応急給水計画を幹事応援事業体と共有します。

II.【活動内容の決定】 応急給水班と幹事応援水道事業体は、応急給水計画に基づき、所管区域内における他都市応援隊の配置計画及び活動内容について審議を行い、決定していきます。

・ 様式 17（表）「応急給水作業予定表」

III.【指示】 幹事応援水道事業体は、他都市応援隊に対して被害状況等の説明を行うとともに、決定した配置計画及び活動内容について指示を行います。

・ 様式 16(表)「応急給水作業指示書」

IV.【報告書の作成】 他都市応援隊は、活動終了後に活動報告書を作成し、幹事応援水道事業体へ提出します。

・ 様式 16（裏）「応急給水作業報告書」

V.【報告】 幹事応援水道事業体は、他都市応援隊が作成する活動報告書を集約し、応急給水班へ随時報告を行います。

・ 様式 17（裏）「応急給水作業集約表」

（2） 応急給水活動の内容

運搬給水等の応急活動については、応急給水班又は幹事応援水道事業体から具体的な指示を行いますが、事前に主な活動内容を記載します。

➢ 給水車の取水場所

給水車の取水場所の想定箇所については、次の5か所です。

船津浄水場（水道事業部併設）	姶良市船津 138 番地 1
重富浄水場（姶良地区）	姶良市平松（R9 年度から使用可能）
中央浄水場（加治木地区）	姶良市加治木町木田 4393 番地
山元水源地	姶良市蒲生町 3181 番地

被災状況又は交通の状況によっては運搬給水先の給水拠点周辺で運用できる消火栓等も活用いただくこともあります。

➢ 応急給水作業の役割分担等（フローの再掲）

応急給水作業については、①活動統括担当 ②給水基地担当 ③運搬給水担当 ④応急給水拠点担当の4つがあり、各々の役割は次のとおりです。

① 活動統括担当【幹事応援水道事業体】・・・応急給水作業全般の支援・応援水道事業体に応急給水作業の指示を行うとともに、作業指示・報告状況の把握のため、次の様式に集約をお願いします。

・ 様式 17（表）「応急給水作業予定表」

・ 様式 17（裏）「応急給水作業集約表」

② 給水基地担当

各取水場所等での給水車への注水作業。

基本的に、水道事業部又は市職員が対応します。発災初期や職員による対応が不可の場合、応援水道事業体に対応いただく場合があります。

応急給水所での応急給水活動及び運搬送水を優先的に行っていただきます。

③ 運搬給水担当

給水車で給水場所から医療機関等や給水拠点まで水道水を運搬し、給水を実施

地域防災拠点、福祉避難所への運搬給水を優先的に行っていただきます。災害拠点、病院・救急告示医療機関に対しては、水道事業部職員や市職員が運搬給水で受水槽への給水を行いますが、発災初期や職員による対応が不可の場合は運搬給水を行っていただく場合があります。

④ 応急給水拠点担当

応急給水所において仮設水槽又は応急給水栓を設置し、周辺住民への給水を実施。応急給水班の市職員とともに、応急給水所の設置、運営、撤収を含みます。（状況や給水所により、開錠、施錠をお願いする場合があります。）

・ 原則として運搬容器の持参を呼びかけしてください。
・ 初期段階は給水袋の配布も可
・ 周辺住民に応急給水の開始時間等の広報をお願いします。

➢ 応急給水活動時間

応急給水所の開設及び運搬給水の時間は、原則8時から 20 時までを基本とします（応急給水所の設置、撤収等があることから、作業時間は7時から 21 時まで）。ただし、並んでいる人がいる場合は、並んでいる人すべてに給水するか、給水車に積載した水が空になるまで作業を行ってください。

（3） 広報について

（ア） 応急給水の場所や予定時間、断水の解消見込みなどの情報は、応急給水班から派遣する市職員が対応します。

（イ） 本庁の危機管理部局と調整の上、複数の伝達手段（行政防災無線、防災メール、LINE、ホームページ、広報車、チラシなど）で伝達を行います。随時 HP 等の確認をお願いします。

（4） その他

本市は錦江湾に面していることから、応急給水活動中、桜島の降灰も予想されます。季節に関わらず、可能な限りテントを持参ください。また、万が一、降灰時の活動となった場合には次の点に留意ください。

・ タンクの保護： 給水時は上部開口部を最小限しか開けないようにしてください。
・ 蛇口の養生： 給水待機中は、吐水口にビニールカバー等を被せ、灰の付着を防ぐようにしてくださ

い。

- 車両メンテナンス：灰は研磨剤の役割をするため、ワイパーの使用に注意してください。また、活動終了後は足回りを優先的に洗浄するようにしてください。

6 応急復旧作業にあたり留意していただく事項

応急復旧活動に関する具体的な内容は、現地対策部（水道事業部）での説明になりますが、応急復旧における活動フロー、留意点について記載します。

(1)応急復旧活動フロー

I. 【共有】

調査・復旧班が作成した応急復旧計画を幹事応援水道事業体が各応援水道事業体に共有します。設定がない場合には、調査・復旧班が直接、各応援水道事業体に共有します。以下、活動内容の決定、指示についても、同様の流れとします。

II. 【活動内容の決定】

調査・復旧班と幹事応援水道事業体は、応急復旧計画に基づき、所管区域内における各応援水道事業隊の配置計画及び活動内容について審議を行い、決定していきます。

III. 【指示】

幹事応援水道事業体は、各応援水道事業隊に対して被害状況等の説明を行うとともに、決定した配置計画及び活動内容について指示を行います。

- 【漏水調査作業指示書（様式：始復旧様式１）】（漏水調査）
- 【管路復旧作業指示書（様式：始復旧様式２）】（管路修理）

IV. 【報告書の作成】

各応援水道事業体は、活動終了後に活動報告書を作成し、幹事応援水道事業体へ提出します。幹事応援水道事業体の設定がない場合には、報告書は直接、各水道事業体から調査・復旧班へ提出します。

- 【漏水調査受付書及び漏水調査報告書（様式：21）】（漏水調査）
- 【管路修理報告書（様式：23）】（管路修理）

V. 【報告】

幹事応援水道事業体は、各応援水道事業隊が作成する活動報告書を集約し、調査・復旧班へ随時報告を行います。（幹事応援水道事業体の設定がない場合は不要。）

- 【応急復旧活動対応表（様式 22）】（漏水調査）
- 【管路被害算定表（様式 25）】（管路修理）

・ 【管路修理集約表（様式：24）】（管路修理）

(2)応急復旧作業の際の留意点

・ 配水管の修理

復旧に使用する配水管等の資材は原則として姶良市が準備、調達します。ただし、緊急時や材料が不足している等の場合は他都市に提供をお願いする場合もあります。

提供いただいた場合、求償や補助事業申請の観点から、提供くださる資材等について、あらかじめ記録をお願いします。

・ 残土仮置場

応急復旧作業で発生した残土は、船津浄水場（水道事業部）に仮置きができます。

・ 給水引込管の修理

配水管分岐部からメーターまでの給水装置の修繕は、姶良市が主として行い、メーターから民地側の給水装置修理は、使用者が指定給水装置工事事業者に直接依頼し修繕を行うこととします。住民の要望等により必要と認められる場合は、仮設水栓を設置します。

・ 栓弁類の操作方法

仕切弁開閉：右回し⇒閉、左回し⇒開

消火栓開閉：右回し⇒閉、左回し⇒開

使用資材

（ア）配水管

・現在の方針ではφ100 以下はポリエチレン管、φ150 以上はダクタイル鋳鉄管 GX 型

・既設管

HPPE、HIVP、VP、DCIP-A、DCIP-K、DCIP-GX、DCIP、NS、SP

・埋設深さは、土被り 1.2～0.6m

（イ）給水管

・現在の方針では道路～宅地（メーターまで）：HDPE

・分岐はサドル分水栓（φ50 以下）又は割丁管

・φ30 の分岐は基本的にはありません

・止水栓は宅地内に設置（メーター止水栓あり）

・ 配水ブロックについて

漏水調査及び応急復旧は、配水系統に基づくブロック単位とし、復旧状況に応じて応援水道事業体を配置します。

応急活動にあたって必要となる資料

応急活動にあたって必要となる各種資料については、調査・復旧班から応援水道事業体の皆さまに共有します。

参考資料（日水協手引きから抜粋）

資料2

資料２

○○水道課　災害時対応確認シート【1】　【応急給水編】

①事業体概要

全給水人口（人）	30,000
全給水戸数（戸）	15,000
一日最大給水量（㎥）	10,000
全職員数（人）	12

災害発生

②災害概要

応急給水対象人数（人）	30,000
断水戸数（戸）	15,000
断水率（%）	100
災害対応職員人数（人）	8
職員参集率（%）	70

③事業体基本情報

【応急給水拠点】　※必要に応じてセルを追加してご使用下さい。

施設名	住所	対象住民（人）	応急給水方式	担当	備考
○○公園	○○町1234	1,000	耐震貯水槽	○○	（20㎥）手動加圧式
△△公民館	△△町2345	500	仮設水槽	○○	（1㎥）現地倉庫保管
⋮					

【給水基地】

施設名	住所	有効水量(㎥)	災害時確保水量(㎥)	担当	備考
○○配水池	○○町1234	10,000	2,000	○○	緊急遮断弁有り
⋮					

【緊急病院等重要施設】

施設名	住所	受水槽容量(㎥)	受水槽への給水	必要ホース長(m)	担当	備考
○○病院	○○町3456	100	加圧給水車	10	○○	自己水源有り
△△病院	△△町4567	70	無加圧給水車	5	○○	地下型受水槽
⋮						

【保有給水車両及び給水容器等】

車両・給水容器等	車番・仕様	数　量	格納場所	担当	備考
加圧ポンプ付き給水車	12-34　2 ㎥	1 台	○○車庫	○○	○○病院、△△病院へ給水
仮設水槽＆土台	給水栓付き　1㎥	10基	各公民館倉庫	○○	○○組合による運搬給水
⋮					

②災害概要と③事業体基本情報を精査し、自事業者のみで対応が可能か判断する。対応が困難な場合は、早期に④具体的な応援要請を行う。

④具体的な応援要請

車両・給水容器等	仕様	数量	備考	応援依頼先
加圧ポンプ付き給水車	タンク容量1㎥以上	3台	□□病院他、6病院へ給水	**日水協県支部長へ依頼**
無加圧給水車	タンク容量1㎥以上	2台	○○公園、○○避難所で応急給水	**日水協県支部長へ依頼**
⋮				
仮設水槽＆土台	給水栓付き　1㎥	5基	各中学校に臨時設置	都市間協定○○市

様式 15
（応援水道事業体用）

応急給水応援体制報告書

作 成 日	年　　月　　日	派遣期間	月　　日(　) ～ 月　　日(　)

記入上の留意事項	・応援班到着時、応援班構成変更時に作成し、現地の水道給水対策本部に提出

○応援班連絡先

事業体名		応急給水班数	班
責任者	氏　　名： 連絡先電話：	車両総数	台
事務担当者	氏　　名：		
給水要員	氏　　名：		
給水要員	氏　　名：		
給水要員	氏　　名：		
	氏　　名：		

○応援班構成

人　員	給水用具	車両台数 (タンク容量)	備　考
人			
人			
人			
人			
合　計 人			

様式 16(表)

（被災水道事業体用）

（表）

応急給水作業指示書

作 成 日	年　月　日	備　考	

記入上の留意事項	・給水車ごとに作成 ・作業開始前にコピーを水道給水対策本部に提出 ●印箇所：水道給水対策本部が記入 ○印箇所：応急給水班が記入

●作業指示内容

事業体名	
給水車	タンク容量　　m^3　　加圧　有・無
給水拠点	
給水基地	
特記事項	

●作業指示者（　　）

事業体名	
担当者	氏　　名： 連絡先電話：

○現地応急給水隊（応急給水班）

事業体名		作業員数	人
連絡責任者	氏　　名： 連絡先電話：	車両ナンバー	

様式 16(表)

(応援水道事業体用)

(裏)

応急給水作業報告書

作 成 日	年　　月　　日	備　　考	

記入上の 留意事項	・時系列順に作業内容を記入 ・作業終了後、水道給水対策本部に提出

○作業内容　　開始時間　　終了時間

給水時間又は注水時間		給水拠点又は 給水基地	注水量	給水量	備　考(混雑状況・ 給水人数(概数))
	:　～　:		m^3	m^3	
	:　～　:		m^3	m^3	
	:　～　:		m^3	m^3	
	:　～　:		m^3	m^3	
	:　～　:		m^3	m^3	
	:　～　:		m^3	m^3	
	:　～　:		m^3	m^3	
	:　～　:		m^3	m^3	
	:　～　:		m^3	m^3	
	:　～　:		m^3	m^3	
	:　～　:		m^3	m^3	
	:　～　:		m^3	m^3	
	:　～　:		m^3	m^3	
	:　～　:		m^3	m^3	
作業時間合計		時間　　分			
給水量合計		m^3			
注水量合計		m^3			
特記事項 (給水場所の様子等を記入)					

様式 17

（被災水道事業体用）

応 急 給 水 作 業 予 定 表

No.

作 成 日		備　考	

記入上の留意事項	・当日の給水作業開始直後、作業指示書【様式16（表）】を基に水道給水対策本部が作成 ・給水活動の状況把握が目的

作 成 者	氏　　名 ： 連絡先番号 ：

NO.	事業体名	代表者氏名 連絡先番号	作業員数（人）	タンク容量（m^3）	加圧	給水拠点	備　考
1					有・無		
2					有・無		
3					有・無		
4					有・無		
5					有・無		
6					有・無		
7					有・無		
8					有・無		
9					有・無		
10					有・無		
11					有・無		
12					有・無		
13					有・無		
14					有・無		
15					有・無		
計	応援事業体数　　給水車（　　台）		名	m^3	有　　台（　　m^3） 無　　台（　　m^3）		

様式 18

（被災水道事業体用）

応 急 給 水 作 業 集 約 表　　No.

作 成 日		備　考	

記入上の留意事項	・当日の給水作業終了後、作業報告書【様式16(裏)】を基に水道給水対策本部が作成 ・実際の給水活動の集約が目的

作 成 者	氏　　名 ： 連絡先番号 ：

NO.	事業体名	給水車台数	主な給水拠点	給水量	備　考（給水車の内訳等を記入）
1				m^3	
2				m^3	
3				m^3	
4				m^3	
5				m^3	
6				m^3	
7				m^3	
8				m^3	
9				m^3	
10				m^3	
11				m^3	
12				m^3	
13				m^3	
14				m^3	
15				m^3	
計		0		0 m^3	

様式 20(表)

（応援水道事業体用）

（表）

No.

応急復旧応援体制報告書

作 成 日	年　　月　　日	派遣期間	月　日(　) ～　　月　日(　)

記入上の 留意事項	・応援班到着時、及び応援班構成変更時に作成し、 現地の水道給水対策本部に提出する

○応援班連絡先

事業体名		通水及び 漏水調査班数	班
総括責任者	氏　　名： 連絡先電話：	応急復旧班数	班

○応援班構成

作業内容	人　員（人）	持参資機材等	備　考
総括班 （連絡調整）			
総括班 （記録）			
通水及び漏水調査班 （通水及び漏水調査）			
修繕班 （配水管、給水管修理）			
修繕班 （配水管、給水管修理）			
合　計			

様式 20(裏)

（応援水道事業体用）

（裏）

月　　日提出

		応急復旧班	
	氏　名	携帯電話番号	派遣期間（予定）
総括班	（責　任　者）		月　　日(　) ～　　月　　日(　)
通水及び漏水調査班	（責　任　者）		月　　日(　) ～　　月　　日(　)
修理班（　　）	（責　任　者）		月　　日(　) ～　　月　　日(　)

様式 21
（表）

様式 21(表)
（応援水道事業体用）

漏水調査受付書

記入上の 留意事項	・ 通報者から可能な限り詳細を聞き取る。 ・ 住宅地図、配管図に漏水箇所を明示し添付。

受付番号	
受付日時	年　月　日　曜日　時　分
通 報 者	氏名：　連絡先電話： 住所：
受 付 者	事業体名：　氏名： 電話：

場　所		
漏水状況	場　所	□道路（車道・歩道・私道・その他）　□宅地内（メータ上流・下流）
	舗　装	□アスファルト　□コンクリート　□砂利　□その他（　）
	道　路	□陥没　□隆起　□割裂　□損傷なし　□その他（　）
	漏　水	□漏水中　□漏水痕　□その他（　）
	漏水量	□大　□中　□小
備　考		

様式 21(裏)
（応援水道事業体用）

（裏）

漏水調査報告書

記入上の 留意事項	・ 現地調査後に記入し、調査・復旧班に提出。 ・ 仮配管、仕切弁新設等、管路を修理しない復旧工事について備考欄に内容を記載。

調査番号	
調査日時	年　月　日　曜日　時　分
調査担当者 （代表者）	事業体名：　氏名： 電話：

場　所		
漏水状況	区　分	□道路（車道・歩道・私道・その他）　□宅地内（メータ上流・下流）
	舗　装	□アスファルト　□コンクリート　□砂利　□その他（　）
	道　路	□陥没　□隆起　□割裂　□損傷なし　□その他（　）
	漏　水	□漏水中　□漏水痕　□修理済み　□その他（　）
	漏水量	□地上流出（大　中　小）　□地下流出（大　中　小）
漏水確認	残　塩	□あり（　　ｍｇ/ℓ）　□なし
漏水管路	□導水管　□送水管　□ 配水管（配水本管・配水支管） □給水管（メーター上流）　□給水管（メーター下流）　□不明	
修　理	必要性	□あり　□なし　□経過観察
	緊急性	□高い　□通常　□低い　□その他（　）
備　考	※　修理者に対して指示がある場合は具体的に記入してください。	

始復旧様式1

（被災水道事業体用）

漏水調査作業指示書

作 成 日	年　　月　　日	整理番号	

記入上の 留意事項	・復旧工事ごとに作成 ・作業開始前にコピーを復旧担当に提出 ●印箇所：被災事業体復旧担当が記入 ○印箇所：漏水調査隊（班）が記入

●作業指示内容

事業体名・班名	
復旧場所住所	
位置図	具体的な目標：

●作業指示書（復旧担当）

事業体名・班名	
担当者	氏　　名： 連絡先電話：

○漏水調査隊（漏水調査班）

事業体名・班名		従事職員数	人
連絡責任者	氏　　名： 連絡先電話：	車両ナンバー	

始復旧様式2

（被災水道事業体用）

管路復旧作業指示書

作 成 日	年　　月　　日	整理番号	

記入上の 留意事項	・復旧工事ごとに作成 ・作業開始前にコピーを復旧担当に提出 ●印箇所：被災事業体復旧担当が記入 ○印箇所：応急復旧隊（班）が記入

●作業指示内容

事業体名・班名				
復旧場所住所				
漏水状況	区分	□道路　□宅地内	舗装	□アスコン　□セメコン　□その他
	管路	□導水管　□送水管　□配水管　□道路部給水管　□宅地部（メーター上流）		
位置図	具体的な目標：			

●作業指示書（復旧担当）

事業体名・班名	
担当者	氏　　名： 連絡先電話：

○漏水調査隊（漏水調査班）

事業体名・班名		従事職員数	人
連絡責任者	氏　　名： 連絡先電話：	車両ナンバー	
施行事業者	社名： 連絡先：	現場代理人氏名	作業員数：　　人 作業車両：　　台

様式 23(表)
（応援水道事業体用）

（表）

管路修理報告書

記入上の 留意事項	・施工前と施工後の配管図は、可能な限り詳細に記入

工事番号	
施工期間	年　月　日　曜日　時　分　～　月　日　曜日　時　分
監 督 者	事業体名：　　氏名：　　電話：
施工業者 （代表者）	施工業者名：　　氏名：　　電話：　－　－

場　所				
被害施設	□管路　□付属設備　□その他 （　）			
修理管路	漏水管路	□導水管　□送水管　□配水管（配水本管・配水支管） □給水管（メーター上流）　□給水管（メーター下流）		
	口　径			
	材　質	□DIP　□CIP　□SP　□VP　□ポリエチレン　□LP □その他（　）		
	継手形式	□A 形　□K 形　□T 形　□S、SⅡ形　□NS 形　□GX 形　□KF、UF 形 □フランジ形　□溶接　□ねじ込み　□TS　□RR　□RR（ロング）□融着 □不明　□その他（　）		
付属設備	□消火栓　□空気弁　□バルブ・止水栓　□サドル分水栓　□その他（　）			
被害状況	管路	□タテ割れ　□ヨコ割れ　□折れ　□破断　□その他 （　）		
	継手	□抜け　□ズレ　□割れ　□ゴム輪（破断、ズレ）　□その他（　）		
	付属設備	□機能不全　□抜け　□割れ　□変形　□ズレ　□その他 （　）		
地盤状況	道路状況	□異常なし　□陥没　□隆起　□割裂　□その他（　）		
	クラック幅	□管直角方向　□水平方向　　cm（1cm 以上を記入）		
		□段差（沈下量）　　cm（漏洩位置から 15m 範囲内（全体で 30m））		
	地盤の傾斜	□なし　□管軸方向　□管直角方向　（傾斜角度≒　　°）		
	液状化	□有り　□無し　※近くに噴砂跡の有無	盛土	□
備　考				

様式 23(裏)

（応援水道事業体用）

（裏）

現場見取り図	配管図（施工前）
配管図（施工後）	使用材料集計

様式 24

（被災水道事業体用）

管　路　修　理　集　約　表

活　動　日		被災事業体名：
記　入　者	氏名：	連絡先電話：

記入上の留意事項	資料－14管路修理報告書の集約に使用する。

No

番号	管路区分	管路属性			被害形態		被害施設住所					施工日		施　工　者			備　考（修理指示番号等）
		管　種	口　径	継　手	管　路	付属設備	市(区)	町	丁目	番地	住宅・地先名	開　始	完　了	地方支部名	事業体名	業者名	

導水管
送水管
配水管(本・支)
給水管
(ﾒｰﾀ上・下流)
を記入する

DIP、CIP
SP、VP、
PE等を
記入

印籠型
A型、K型
T型、NS型
溶接、ねじ
TS、RR
電気融着
等を記入

継手抜け
継手漏水
管体破損
継手破損
属具破損
その他
不明
等を記入

機能不全
破損
等を記入

様式 25

管路被害算定表　（管種・口径・被害形態別）

様式25

作成日時	月　日　時現在	被災事業体名：
記　入　者	氏名：	連絡先電話：

記入上の留意事項	管種・継手形状ごとに分類し集計する。

管種・継手													
被害形態		継手抜け	継手漏水	継手破損	管体破損	不明	付属設備	継手抜け	継手漏水	継手破損	管体破損	不明	付属設備
口径	40㎜												
	50㎜												
	75㎜												
	100㎜												
	125㎜												
	150㎜												
	200㎜												
	250㎜												
	300㎜												
	350㎜												
	400㎜												
	500㎜												
	600㎜												
	700㎜												
	800㎜												
	㎜												
	㎜												
	㎜												
小計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
（件）		0						0					
管路延長（㎞）		0						0					
被害率（件/㎞）		0.00						0.00					

※被害率の算出にあたっては、付属設備の被害件数を除く

管種・継手													
被害形態		継手抜け	継手漏水	継手破損	管体破損	不明	付属設備	継手抜け	継手漏水	継手破損	管体破損	不明	付属設備
口径	40㎜												
	50㎜												
	75㎜												
	100㎜												
	125㎜												
	150㎜												
	200㎜												
	250㎜												
	300㎜												
	350㎜												
	400㎜												
	500㎜												
	600㎜												
	700㎜												
	800㎜												
	㎜												
	㎜												
	㎜												
小計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
（件）		0						0					
管路延長（㎞）		0						0					
被害率（件/㎞）		0.00						0.00					

※被害率の算出にあたっては、付属設備の被害件数を除く

	継手抜け	継手漏水	継手破損	管体破損	不明	付属設備
合　計	0	0	0	0	0	0
	0					
管路全延長（ｋｍ）	0.0					
被害率（件/ｋｍ）	0.00					

※被害率の算出にあたっては、付属設備の被害件数を除く